

## 学長室から

竹屋 元裕

## 「チーム医療演習」とアクティブラーニング

アクティブラーニング方式に則った「チーム医療演習」（担当：川口教授、山田教授、伊藤教授）が10月17日から始まった。医学検査、看護、リハビリテーションの4年生が10～11人よりなる混成チームをつくり、与えられた疑似症例のシナリオを教材として症例解析を行う。

「アクティブラーニング」とは、学生自らが能動的に学ぶように設計された学習方法のことで、グループ・ワークやグループ・ディスカッション、そしてグループ間ディベートなどが含まれる。今世紀初頭から始まった医学教育改革の流れに沿って、多くの医学部・医科大学がこの方式を導入し、私が所属していた熊大医学部でも少人数グループによるアクティブラーニングが2007年度から取り入れられた。当時、医学科長や医学部長を務めていた私はその優

れた教育効果を肌で感じていた。その後、他の医療系大学・学部にも広まり、今では医療人教育に欠くことの出来ない授業形態となっている。

本学でも2016年度に、アクティブラーニング方式の授業として「チーム医療演習」が導入された。本学の「チーム医療演習」の特色は、3学科合同による多職種連携にあり、各学科の学生がそれぞれの専門性を生かして症例を解析し、ワンチームとして発表する。3学科混成チームということで初対面の学生も多く、その中でいかにチームワークを発揮できるかが注目される。まさにチーム医療の実践である。

「チーム医療演習」は毎週木曜日に5回にわたって実施され、最終の11月14日にはグループ発表と討論が繰り広げられる。ぜひ、多くの方に聴講していただきたい。



「チーム医療演習」初日。まずは自己紹介から

## キャンパステラス発

松岡 詠子

## グループ学習

キュッキュッ、カツ、カツ、カツ…。ホワイトボードに文字が躍る。黒、青、赤、緑、4色の文字で真っ白なボードが、上から下までぎっしりと埋まる。1枚目、2枚目、3枚目…。「ふう」、小さな吐息と共にペンの動きが止まる。

裏表にみっちり書かれた内容に興味をわき、そっとのぞいてみた。「部位」、「部位に関連する病気」、「症状」、「治療及び解決法」がそれぞれ色分けされている。「一つの事象を、バラバラでなく関連していろんな角度からトータル的に覚えていくことが、試験に際し効率的

な勉強法なんです」と、学生ははにかみながら答えてくれた。

ずっしりと重いカバンから何冊もの参考書が顔をのぞかせていて、その内容がボードに解放されていく。

協同学習は、知識を効率的にまとめながら得ることができる学習方法の一つらしい。

仲間とのディスカッションの声が聞こえてきた。再びキュッ、ギュッと文字の踊る音、パラパラとページを繰る音。熱く真剣な「音」が交差する場所がキャンパステラスなのだと思う。

今年の杏祭(10月18~19日)も盛況のうちに終了しました。杏祭実行委員長を務めた緒方光陽さん(リハビリテーション学科理学療法学専攻2年)に振り返ってもらいました。

(NL編集部)

不安だらけだった準備期間  
最後の花火眺め「やり切った」

—杏祭お疲れさまでした。終わってみていかがですか。

緒方：終わるまで不安だらけでしたが、来場者も多く安心しました。実は、企画ステージは1年生主体で企画していたので、心配していたのですが、本番の出来栄は素晴らしかった。特に、『力自慢』は初めての企画です。それを含めて、見ていても面白いステージができました。1年生の成長ぶりにはびっくりです。

—実行委員長としての苦勞は。

緒方：人にもものを頼むことが得意じゃなくて、どうやったら人を動かせるか、思っていることをどう伝えたらいいか、ということに悩み続けた約5カ月の準備期間でした。おかげで、そういったことにずいぶん抵抗がなくなりましたし、人とうまく話せるようになったかなと。フィナーレを飾った花火は、『やり切ったな』という思いで眺めていました。

—来年の杏祭に向け、後輩にアドバイスを。

緒方：時間はあっという間に過ぎていきます。決められること、できることは早め早めにやっておくこと。一日一日を大切に、いろんなことにチャレンジしてほしいですね。

「時間があっという間に過ぎていった」と話す緒方さん



アカデミックスキル  
支援センター

レポート

## 「剽窃」撲滅に向け誓約書

引用マナーなど大学院生が手ほどき

論文やレポート作成時の引用のマナーに関する講義を10月17日(木)、22日(火)に行いました。1年生を対象とした全学必修科目「アカデミックスキルⅡ」の一環。講義は50周年記念館などで学科ごとに実施。大学院1年生でアカデミックスキル支援センター指導員の瀬藤璃音さんが、引用の意義や方法について説明しました。

引用のマナーを知らなければ、誰もが気づかないうちに、他人のアイデアや言葉をあたかも自分のものであるかのように見せる「剽窃」に手を染めてしまう可能性があります。瀬藤さんは、学生便覧に定められた本学の内規を示しながら、剽窃が不正行為に該当し、厳しい処分の対象になることを説明しました。その上で、無断借用を防ぐための手続きでもある、「引用」のやり方について説明しました。

講義を聴いた学生たちは、今後、剽窃を行わないという内容の「誓約書」に、真剣な表情で署名していました。

(アカデミックスキル支援センター 松尾健志郎)

### 「アカデミックスキルⅡ」



引用のマナーなどを説き、剽窃の防止を訴える  
瀬藤さん



## GSLP&交換研修 帰国報告会



活動報告を行う大邱保健大学交換研修（韓国）に参加した学生たち

図書館主催の「私の部屋でランチを」第70回が10月28日（月）、キャンパステラスで開催され、今夏、本学の海外派遣留学プログラムに参加した20人の学生が「海外留学の魅力とは！？～GSLP&交換研修 帰国報告会2024～」と題して話しました。

学生たちはGlobal Student Leadership Program（韓国）、大邱保健大学交換研修（韓国）、コンケン大学交換研修（タイ）のプログラムごとに活動を報告。充実感に満ちた表情で印象的だった学びや、文化の違い、思い出などについて語っていました。

会場からの「ずばり海外留学の魅力は何か」という質問に対し学生たちは、「国境や年代の壁を越えて、幅広い交友関係を築けること」と回答。この回答を受けて国際交流委員会の青木学委員長は、「今回の研修で得た人との繋がりは、これからも大事にしてほしい。また、皆さんの経験を、オープンキャンパスなどで多くの人に共有し、今度は皆さんが誰かと誰かの繋がりを生み出すきっかけになってほしい」と総括しました。（NL編集部）

## 銀杏アラカルト

■リハビリテーション学科懇親会 リハビリテーション学科の懇親会が10月15日（火）夜、熊本市中心部の飲食店でありました。産休に入った栃原佳那さんへのねぎらいと、産休代替として勤務に入った守田文さんの歓迎の意味をこめての会合となりました。木下統晴理事長、竹屋元裕学長も出席し、会は終始和やかなう

に進行。学科の結束力を高めるとともに、大学上層部と現場スタッフが交流する貴重な機会にもなりました。参加者全員が、リハビリテーション学科の発展と、働きやすい職場環境の構築に向けて、決意を新たにす有意義な場になったと思います。（リハビリテーション学科理学療法学専攻 久保高明・宮崎宣丞）

## インフォメーション

週間行事予定（11月5日～11月11日）

11/6（水）

学内インフルエンザ予防接種

## 10日13時半、熊本市医師会館

## 肥後医育塾「北里柴三郎記念感染症セミナー」

第83回肥後医育塾の公開セミナーが10（日）13時半から、熊本市中央区本荘の市医師会館2階講堂で開催されます。「北里柴三郎記念感染症セミナー：熊本が生んだ近代医学のヒーローから新時代の感染制御へ」と銘打ち、4人の講師が講演。本学からは生物毒素・抗毒素共同研究講座の高橋元秀特命教授（「柴三郎

の偉業と現代医学への足跡」）と志多田千恵特命助教（「破傷風 身近な危険を探る！」）が登壇します。参加費500円（中学生以下は無料）。定員300人。参加には事前申し込みが必要です。右の2次元コードで申し込むことができます。肥後医育塾事務局 ☎096(361)3033。

